

あんのんえんこう

宰相山 角屋 圓光寺だより

お盆（盂蘭盆会）について

仏説孟蘭盆経というお経に次のようなお話が出ています。昔、お釈迦様のお弟子の目連尊者は、死んだ母がこの世で行った悪行の報いによって餓鬼道（常に餓え苦しまなければならない世界）に落ち苦しんでいることを神通力で見、何とか救いたいと思ってお釈迦様にお願いしました。するとお釈迦様は、目連尊者がたくさんの僧に供養することによって、父母先祖が苦しみから逃れることができることと教えられた。これが盂蘭盆会の言われです。

通俗的な信仰としては、お盆は年に一度地獄の窯のふたが開き、死者がそこから出てきてこの世に帰ってくると信じられています。精霊流しや京都の大文字五山の送り火もこのような信仰と関係があるようです。また盆踊りは、仏教伝来以前から行われていた死者の魂の迎え踊りがお盆と結びついたのではと考えられます。

一体、目連尊者の母が、餓鬼道に落ちたのはなぜでしょうか。それはわが子目連を生み育てるために、必ずも犯した数々の罪によって

なのでしょう。この母の犠牲があったからこそ目連は仏弟子中の第一人者となれたのでしょう。

時は変わっても子に対する父母の愛情は変わらない。今日私があるのは、父母の慈愛のおかげです。私たちはお盆を迎えるにあたり、自分の今日あることの道すじ、因縁を思い先祖に感謝し限らない御仏のお慈悲への感謝のお念仏とともに明日からの生きるべき正しい道を見きわめる日としたいものです。

蓮の花

暑い夏のさなかに、大きな花を咲かせ生命の源ともいえる水の中に生えるこの花の清浄な姿に理想の世界、悟りの世界を想い致します。私たちが拝む阿弥陀様の木造や絵像やお名号の下に蓮台があります。これは浄土の仏さまの姿をそのまま映したものでしょう。このように美しいもの香ばしいものを仏さまに捧げようとすると、その心こそが今のすさんだ世の中で何よりも大切なのではと思われま

（足利和枝）

莊嚴功德（しようこんくどく）について

莊嚴とは、素晴らしく整然と配置されていること、美しく飾ることを意味しています。つまり「雑念として居る世俗」でも仏智で見ると「整然とした清浄な世界が見えてくる」「混沌とした現実とは、じつは美しく飾られている」ということです。混沌とした世俗に「悟りの功德」が見えてくるという意味です。

法蔵菩薩の四十八願からその智慧を得られるようになっていきます。莊嚴功德とは莊嚴（現実）に功德（悟り）を観る。「雑念として居るように見える世間」に「莊嚴功德」を見るのが「智慧の行者」です。功德とは「幸せをもたらす功のある行い」

世俗の中に居ながら「仏智」を得て「悟りに向かう莊嚴功德を観る」ことで「現生往生」が証明されていきます。これが親鸞さんの「非僧非俗（出家の僧でないけど、世俗の価値では生きない）」の意味「在家行者」の意味といえます。具体的に言うと、この出来事は智慧によって観れば「こういうこと」を教えているんだらう、という感じで、日々の出来

〒五四三・〇〇一三 大阪府大阪市天王寺区玉造本町一三・五
電話番号、FAX 〇六・六七六一・八二九三

令和 六年 八月号
寺報 あんのんえんこう
発行 圓光寺ごほう志会
執筆 足利 和枝、正往

事を解釈説明していくことです。

(中神氏の文章に加筆)

「親鸞の教えを深く学ぶ講座」始めます。

この講座は、私が自坊の浄土真宗の教義に対しての疑問から始めようと思いました。浄土とは、弥陀如来とは、亡くなっていく浄土の世界とは、誰も行ったことはないのになぜわかるのか、阿弥陀様にお任せだけで浄土真宗には修行はないのか、など。そういう疑問は私だけでないと思います。

教義に対する根本的な疑問は、一般の方も思っているもお寺に質問しにくい、寺の人も納得してもらえないので避ける。いろんな本を読んでも私は納得できる答えは見つけられませんでした。

親鸞の主著は顕浄土真実教行証文類（教行信証）であるのにそれについての本、解説書が少ない。悪人正機説で有名な「歎異抄」の解説書いっぱいある。それは現代人にも読みやすいからだろう。だけど著者は親鸞でもなく唯円だし何か違う。やっぱり親鸞の教えを知るには親鸞自身が書いた主著だろう。

しかし主著の教行信証はすぐとっつきにくい。仏教用語がわかる前提で書かれている。

でも、なんで真宗の専門家は歎異抄と同じぐらいわかりやすく解説書を書かないのだろう、親鸞の主著なのに、いろいろ思ってたネットでも今回の講師中神章生氏を知り、はじめは一人で勉強してましたが、浄土真宗に疑問を持つてる方もわかりやすく理解してもらえるようにと、この講座を始めます。

普通のお寺のお話と違い、根本仏教、浄土真宗の疑問のある方は納得のいく回答をしていただけ、質問にも答えてくれると思いますのでご参加ください。

(足利正往)

親鸞の教えを深く学ぶ講座

お浄土はどこにあるの、私たちはお浄土行くの、阿弥陀様はお浄土に実在するの、素朴な疑問の答えは、親鸞聖人の主著「顕浄土真実教行証文類」に書かれています。根本仏教も学びながら親鸞聖人の教えを分かりやすく学ぶ講座を始めます。

講師 滋賀県西念寺 住職 中神 章生 氏

日時 秋ごろ九月以降、決まれば圓光寺ホームページ、自坊掲示板で連絡します。来られる方はお電話ください。

ホームページQRコード



場所 圓光寺一階



講師 中神氏からのコメント

死んでも極楽なんてありません。親鸞の言いたかったことをお話しします。死んだら私はどうなりますか？鎌倉時代に九十年生きた親鸞。なぜ九十年も生き抜いたか。いまの苦を解決してくれる親鸞のエッセンスをきちんとお伝えします「親鸞の真意は「いま救われること」その真意をお伝えします「浄土の教えは、おとぎ話じゃありません。「お寺で坊さんの話を聞いても意味はない」思っていますか？